

令和 7 年度 シラバス（授業計画）

工芸デザイン科

2 年生

共 通 科 目		専 門 科 目	
1	言語文化	1	実習
2	公共	2	製図（セラ）
3	数学Ⅱ	3	工業情報数理（デザ）
4	生物基礎	4	セラミック技術（セラ）
5	体育	5	セラミック工業（セラ）
6	保健	6	インテリア計画（デザ）
7	英語コミュニケーションⅠ	7	デザイン実践
8	家庭基礎	8	デザイン材料（デザ）
		9	デザイン史



愛知県立瀬戸工科高等学校

科目名	言語文化	単位数	2	学年	2	学科	全学科
教科書	標準 言語文化（第一学習社）			教材等	学習課題集 現代文グレートラーニング40 意味から学ぶ常用漢字		
目 標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する 資質・能力を身に付ける。						
授 業 計 画							
	学 習 内 容			備 考			
1 学 期	・「とんかつ」 ・「徒然草」 ・「短歌と俳句」			教科書の内容読解に加えて、以下の内容も行います。 ①漢字テキスト課題 週に一回の提出。 ②長期休暇や考査前の学習課題 ③短歌や俳句、年賀状などの創作 ④振り返りシート等			
2 学 期	・「故事成語」 ・「羅生門」 ・「年賀状を書く」						
3 学 期	・「伊勢物語」 ・「和歌と俳諧」						
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
主な 評価 方法	定期考査 授業プリント等		定期考査 授業内での成果物等		漢字学習、学習課題等 授業内での成果物等		
担当者 より	この科目では「知識・技能」と「思考・判断・表現」により重点を置いて評価します。 定期考査だけでなく、日々の漢字学習や授業にも積極的に取り組んでください。 また、成果物そのものだけでなく、制作の過程や制作後の振り返りなども評価します。前向きに学 習しましょう。						

科目名	公共	単位数	2	学年	2	学科	全学科
教科書	新公共(第一学習社)			教材等	新公共ノート(第一学習社) ニュービジョン公共(浜島書店)		
目 標	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。						
授 業 計 画							
	学 習 内 容			備 考			
1 学 期	●法や規範の意義と役割 法と基本的人権 自由に生きる権利と法・規範 平等に生きる権利と法・規範 安全で豊かに生きる権利と法・規範 ●司法参加の意義 裁判所と司法 ●政治参加と公正な世論形成 選挙の現状と課題 世論の形成と政治参加 ●日本の安全保障と防衛 平和主義と安全保障			・法や規範の意義と役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようと試みます。 ・司法参加の意義について、現代の諸課題を主体的に解決しようと試みます。 ・政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に解決しようと試みます。 ・日本の安全保障と防衛について、現代の諸課題を主体的に解決しようと試みます。			
2 学 期	●雇用と労働問題 労働者と権利 ●契約と消費者の権利・責任 消費者の権利と責任 ●社会の変化と職業観 日本経済のこれまでとこれから 技術革新の進展 現代の企業 ●市場経済の機能と限界 日本の財政の課題 ●財政の役割と社会保障 社会保障と国民福祉			・雇用と労働問題について、現代の諸課題を主体的に解決し、自分の将来のあり方について考えます。 ・18歳成年をふまえ、契約に関する知識や問題を身近なこととして捉えて考えていきます。 ・市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決しようと試みます。 ・財政の役割と社会保障について、現代の諸課題を主体的に解決しようと試みます。			
3 学 期	●公共的な空間をつくる私たち 社会に生きる私たち 個人の尊厳と自主・自律 伝統文化とのかかわり			・公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようと試みます。			
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
主な 評価 方法	定期考査 小テスト		定期考査 レポート		課題プリント ノート 発表		
担当者 より	この科目では、「知識・技能」と「思考・判断・表現」にやや重きを置いて評価します。 定期考査だけでなく、発表などに対しても積極的に取り組んでください。 また、レポートについては、学期に2回程度取り組みます。						

科目名	数学Ⅱ	単位数	2	学年	2	学科	全学科
教科書	最新 数学Ⅱ（数研出版）			教材等	パラレルノート数学Ⅱ（数研出版）		
目 標	いろいろな式や、図形と方程式及び三角関数の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数値化したり、数学的に解釈したりすることで、数学のよさを認識し、問題解決の力を育む。						
授 業 計 画							
	学 習 内 容			備 考			
1 学 期	第4章 三角関数 第1節 三角関数 1.一般角 2.弧度法 3.三角関数 4.三角関数のグラフ 5.三角関数を含む方程式や不等式 6.加法定理 7.加法定理の応用 8.三角関数の合成			① 一般角の大きさと動径の位置、度数法と弧度法の運用など、新しい概念を学びながら、既習の公式や定理に当てはめて活用することができる。 ② 三角関数のグラフの概要を掴み、その性質について考察し、活用することができる。 ③ 三角関数を含む方程式や不等式について、その解法を考察する中で、三角関数の合成の方法を修得し、必要な値を求められるようにする。			
2 学 期	第1章 式と証明 第1節 式と計算 1.多項式の乗法と因数分解 2.二項定理 3.多項式の割り算 4.分数式の乗法・除法 5.分数式の加法・減法 6.恒等式 第2節 等式・不等式の証明 7.等式の証明 8.不等式の証明 9.相加平均と相乗平均 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と2次方程式の解 1.複素数			① これまでに学んだ計算の規則を応用し、3次以上の整式の展開、因数分解ができるようにする。 ② 二項定理を活用し、3次以上の式の展開をすることができる。 ③ 分数の性質を理解し、分数式の四則演算ができるようになるとともに、既存の分数の計算についても理解を深め、活用することができる。 ④ 基本的な証明の方法を身につけることで、日頃の問題解決や、事象の説明をする力を育む。 ⑤ 複素数の概念を理解し、数の体系を学ぶことができる。			
3 学 期	2.2次方程式の解と判別式 3.解と係数の関係 第2節 高次方程式 4.剰余の定理と因数定理 5.高次方程式の解法 第3章 第1節 点と直線 1.直線の方程式 2.平面上の点 3.直線の方程式 4.2直線の平面と垂直			① 複素数の範囲にまで拡張した範囲の中で、既習の2次方程式の解法を活用し、解を求めることができる。 ② 剰余の定理や因数定理を活用し、高次の方程式を解くことができる。 ③ 平面における点や直線について考察し、図形と関数との関連に気づき、考察を深める中で、問題解決の能力を育む。			
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
主な 評価 方法	定期考査 小テスト		定期考査 小テスト		授業中の様子 ノート、問題集、課題の取り組み 定期考査の振り返りシート		
担当者 より	この科目では「知識・技能」と「思考・判断・表現」により重点を置いて評価をします。主体的に取り組む態度についても評価に関わる割合は小さくないため、定期考査や小テストはもとより、課題等の取り組みにも手を抜かず、丁寧に取り組んでください。						

科目名	生物基礎	単位数	2	学年	2	学科	KD
教科書	高等学校 新生物基礎（第一学習社）			教材等	なし		
目 標	・生物や生物現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察，実験を行うことなどを通して，生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 ・日常生活や社会との関連を図りながら，生物や生物現象について理解するとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 ・観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。 ・生物や生物現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度と，生命を尊重し，自然環境の保全に寄与する態度を養う。						
授 業 計 画							
	学 習 内 容					備 考	
1 学 期	第1章 生物の特徴 1. 生物の共通性 2. 生物とエネルギー 第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝情報とDNA 2. 遺伝情報とタンパク質の合成					定期考査ごとにパワーポイント、ワークシート、シンキングツール、発表、自己評価、相互評価、実験、小テストを評価します。	
2 学 期	第3章 ヒトのからだの調節 1. からだの調節と情報の伝達 2. 免疫						
3 学 期	第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 生態系とその保全						
観点	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
主 な 評 価 方 法	定期考査 小テスト等		パワーポイント ワークシート シンキングツール 発表			自己評価 相互評価 ノート 実験 長期休業中の課題	
担当者より	評価の観点の割合は、知識・技能：思考・判断・表現：主体的に学習に取り組む態度＝1：1：1です。						

科目名	体育	単位数	2	学年	2	学科	全学科
教科書	現代高等保健体育(大修館)			教材等	種目に必要な用具		
目 標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。						
授 業 計 画							
	学 習 内 容			備 考			
1 学 期	体づくり運動 (7単位時間)			集団行動・ラジオ体操第2・体ほぐしの運動・体力を高める運動			
	選択Ⅰ (14単位時間)			器械運動：マット運動、鉄棒			
	・器械運動			陸上競技：短距離走・リレー、ハードル走、長距離走、やり投げ			
	・陸上競技			【体育理論】			
	体育理論 (3単位時間)			スポーツにおける技能と体力 スポーツにおける技術と戦術 技能の上達課程と練習			
2 学 期	体育理論 (3単位時間)			【体育理論】			
	選択Ⅱ 下記から1種目 (24単位時間)			効果的な動きのメカニズム			
	・球技(バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、サッカー、テニス、バドミントン、卓球、ソフトボール)			体力トレーニング			
	・武道			運動やスポーツでの安全の確保			
				球技：基本技能の修得 武道：柔道			
3 学 期	選択Ⅲ 下記から1種目 (19単位時間)			球技：基本技能の修得			
	・球技(バレーボール、バスケットボール、ハンドボール、テニス、バドミントン、卓球、サッカー)			ダンス：創作ダンス、現代的なリズムのダンス			
	・ダンス			※各選択種目は選択者の人数(男女比)等の都合により、開講できない種目があります。			
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
主な 評価 方法	実技テスト 発表会 行動観察	理解度テスト 技の出来映え	行動観察 実技テスト 発表会	理解度テスト レポート課題	行動観察 長期休業中の課題 発表会		
担当者 より	この科目では3観点をまんべんなく評価します。 自ら運動に親しみ、楽しく仲間と協力して運動をし、各種目のスキルを上達できるように頑張ります。						

科目名	保健	単位数	1	学年	2	学科	全学科
教科書	現代高等保健体育(大修館)			教材等	自作プリント		
目 標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。						
授 業 計 画							
	学 習 内 容			備 考			
1 学 期	生涯を通じる健康 1ライフステージと健康 2思春期と健康 3性意識と性行動の選択 4妊娠・出産と健康 5避妊法と人工妊娠中絶 6結婚生活と健康			・思春期における心身の発達や健康課題について特に性的成熟に伴い、心理面・行動面が変化することについて理解する。 ・自分への行動への責任感や異性を尊重する態度が必要であること、及び性に関する情報等への適切な対処が必要であることを理解する。 ・健康な結婚生活について、心身の発達や健康状態など保健の立場から理解する。 ・家族計画の意義や人工妊娠中絶の身体への影響について理解する。 ・単元にかかわる課題を見つけ、学習する。			
2 学 期	7中高年期と健康 8働くことと健康 9労働災害と健康 10健康的な職業生活 健康を支える環境づくり 1大気汚染と健康 2水質汚濁、土壌汚染と健康 3環境と健康にかかわる対策 4ごみの処理と上下水道の整備 5食品の安全性 6食品衛生にかかわる活動			・加齢に伴う心身の変化について、形態面及び機能面から理解する。 ・健康を守るための保健・医療制度があることを理解する。 ・健康の保持増進をするには、保健所・保健センター、病院等の医療機関及び保健・医療サービスなどを適切に活用することを理解する。 ・わが国や世界では、健康の保持増進を図るために、健康課題に対応して各種の保健活動や対策が行われていることを理解する。 ・人間の生活や産業活動に伴う環境問題が健康に影響を及ぼしたり、健康被害をもたらすことを理解する。 ・食品の安全性の確保は、食品の製造・加工・保存・流通などの各段階での適切な管理が重要であることを理解する。 ・単元にかかわる課題を見つけ、学習する。			
3 学 期	7保健サービスとその活用 8医療サービスとその活用 9医薬品の制度とその活用 10さまざまな保健活動や社会的対策 11健康に関する環境づくりと社会参加			・健康被害の防止には、行政、生産者、消費者がそれぞれの役割を果たすことを理解する。 ・労働による傷病や職業病などの労働災害について理解し、働く人々の健康の保持増進のための総合的、積極的な対策を理解する。 ・単元にかかわる課題を見つけ、学習する			
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
主な 評価 方法	定期考査 発言・発表の内容 提出物の内容			定期考査 発言・発表の内容 提出物の内容		授業準備 発言・発表の状況 提出物の状況	
担当者 より	この科目では「知識・技能」により重点を置いて評価します。 授業準備をしっかりと、正しい知識を身につけ、自分の考えを交えて発言できるように授業に取り組んでください。社会生活を送る中で、自らの健康を守るための行動、また社会環境について考えていきましょう。						

科目名	家庭基礎	単位数	2	学年	2	学科	全学科
教科書	家庭基礎 持続可能な未来をつくる (第一学習社)			教材等	家庭基礎 学習ノート (第一学習社)		
目 標	食生活、衣生活、消費生活、保育を中心に学び、人間の生涯の発達と生活の営みを総合的にとらえ、多種多様な現象や問題を含む社会の中で、男女が協力して、持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立ができる力を育成する。						
授 業 計 画							
	学 習 内 容			備 考			
1 学 期	これからの生き方と家族 生涯の生活設計 家族・家庭と社会のかかわり 衣生活をつくる 被服材料と管理 これからの衣生活			家族の特徴を理解し、抱える問題を知る。 協力して家庭をつくることの意義を理解する。 家族関係の法律について理解する。 衣服の役割、衣服素材の種類と特徴、構成、衣服の表示について理解し、日常生活の中で活用できるようにする。 エプロン製作による基礎縫い技術の定着。			
2 学 期	食生活をつくる 人の一生と食事 栄養と食品 食生活の安全のために 食生活をデザインする 経済生活をつくる 私たちの暮らしと経済 消費問題を考える			食事の役割と重要性を認識する。 五大栄養素の機能とおもな食品の特徴について理解する。食品の選び方、保存の仕方と安全な食生活の関わりを知る。 調理実習を通して基本的な調理技術を学ぶ。 消費者信用の適切な活用について理解し、実践できるようにする。 消費者の権利と責任を知り、契約社会の常識と消費者問題を理解する。			
3 学 期	次世代をはぐくむ 子どもの発達 子どもの生活 子育て支援と福祉 充実した生涯へ 住生活をつくる			身体発育と生理機能の発達、感情や言葉の発達について知る。 子どもの生活の特徴と注意点を知る。 子育ての環境整備の重要性を理解する。 高齢者の生活や心身の状態を知り、支援のあり方を考え、高齢期を支える基本的な制度や仕組みを理解する。			
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
主な 評価 方法	定期考査 実習作品の出来栄え 実習道具のプリントなど		定期考査 学習ノート 授業中の発表など		実習の振り返りプリント 長期休業中の課題 学習ノートなど		
担当者 より	この科目では3つの観点を均等に評価します。家庭科は、これからの人生を幸せなものにするために必要な知識と技術を学ぶ教科です。授業の内容を常に実生活と結び付け、自分事として考え、学んだことを実践できるように身に付けるつもりで積極的に取り組んでいきましょう。						

科目名	実習	単位数	5	学年	2	学科	工芸デザイン科 (デザインコース)	
教科書	自作プリント等			教材等	教師自作教材			
目 標	工業の発展と生活環境との調和のとれた在り方や現代社会におけるデザインの意義や役割を理解し、改善・向上のため新しく提案する能力を育成する。また、デザインプロセスを総合的・合理的に計画し、デザインの分野に関する知識・技術・技能を習得するため、創造的・実践的な実習を展開する。							
授 業 計 画								
	学 習 内 容			備 考				
1 学 期	工芸デザイン科のデザインコースを対象とする。 デザインの分野は幅広く、それぞれの分野における基礎・基本的な内容を学習する。 3単位実習と2単位実習の2種類を行う。 3単位実習について 4分野（4コース）から、生徒各自が1つを選択し、その分野の実践的なプロセスによって、デザイン・造形についての知識・技術・技能をより深く学ばせる実習を展開する。 2単位実習について 4～8つのグループに分かれ、実際の製品が、企画から販売されるまでの一連の流れを通年で体験する。（但し、製品の材質はやきものに限定する） 各分野で共通する実習内容の概要 ・課題の設定、選択 ・リサーチ（資料の収集・分析） ・アイデアの展開（スケッチ・設計・製図） ・プレゼンテーション（作品制作・実験・研修）			3単位実習 4コース …①素描（描写） ②企画（物語等） ③立体（製品） ④空間（インテリア） 選択したデザイン分野の技術・技能をより専門的に、より深く習得させる。 ・課題を理解し、適性を選択させる。 ・デザインプロセスを理解し、適正な計画を立てる。 ・オリジナル性に留意し、目的に応じたアイデアスケッチによる発想の展開を求める。 ・高い表示、表現力を身に付け、説得力あるプレゼンテーションまたは作品を要求する。 2単位実習 4～8グループにわかれ、各グループで課題を設定する。 例）食器、日用品、キッチン用品、生活雑貨等 そこから、問題点の発見、改善すべき要素の優先順位の選択、想定されるユーザーなどを、考察、設定して、プロトタイプから、販促用の広告からパッケージまでを作り上げる。				
	2 学 期	3単位実習 各コースで課題を行う。 2単位実習 プロトタイプをつくる						
	3 学 期	3単位実習 各コースで課題を行う。 2単位実習 パッケージ及び、販促用媒体の作成						
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
主な 評価 方法	作品 取組姿勢の観察 振り返りシート			作品 振り返りシート 長期休業中の課題		取組姿勢の観察 振り返りシート 長期休業中の課題		
担当者 より	この科目では3観点を均等に評価します。作品だけではなく、振り返りシートや長期休業課題に対しても積極的に取り組んでください。 また、授業中におけるさまざまな活動も積極的に評価をしますので、どんなことにも前向きに学習していきましょう。							

科目名	工業情報数理	単位数	2	学年	2	学科	工芸デザイン科 (デザインコース)
教科書名	工業情報数理(実教出版)			使用 教材等	なし		
目 標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、工業の諸課題を適切に解決することに必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 情報について社会や生活との関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。 (2) 情報により解決できる課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき構想を立て解決する力を養う。 (3) 情報による豊かで快適な生活空間を構築する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。						
授 業 計 画							
	学習内容			備 考			
1 学 期	オリエンテーション 2班編制同時展開(ローテーションにて履修) 〈工業情報数理A〉 インフォグラフィックスについての調べ学習とイラストレーターの方法 〈工業情報数理B〉 ソフトウェアの基本知識 アニメーション作成についての説明			1年次の復習 インフォグラフィックスについての説明 イラストレーターによる基本操作 ソフトウェアの基礎 図形処理ソフトウェア (教科書) プレミアプロによる操作・制作			
2 学 期	〈工業情報数理A〉 インフォグラフィックス 〈工業情報数理B〉 ソフトウェアについて アニメーション制作			インフォグラフィックスについての調べ学習 イラストレーターによる作品制作・まとめ データベースソフトウェア プレゼンテーション支援ソフトウェア プレミアプロによる動画の作成			
3 学 期	インフォグラフィックスのまとめ、発表			制作したインフォグラフィックスについての発表			
評 価 基 準	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	定期考査 授業プリント 取組姿勢		定期考査 授業プリント 発表		取組姿勢 長期休業中の課題等		
担当者 より	この科目では「知識・技能」と「思考・判断・表現」により重点を置いて評価をします。日頃の学習活動を大切にし、作品制作やプリント学習に取り組みましょう。長期休業中課題は積極的に取り組み、期日を守って提出しましょう。定期考査だけでなく、プリントや制作物などの提出物を丁寧に取り組み、とくに期限を守ることが重要です。						

科目名	セラミック技術	単位数	2	学年	2	学科	工芸デザイン科 (セラミック陶芸コース)
教科書	なし			教材等	(副読本) セラミック技術 (公社) 日本セラミックス協会		
目 標	セラミックスの製造技術に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。						
授 業 計 画							
	学 習 内 容			備 考			
1 学 期	原料処理 ・原料概論 ・原料の移動、輸送、前処理 ・粉砕、粉粒体の特性 ・分級、集じん、混合			セラミック技術の基礎的な理論を学ぶ。 ・原料(天然原料・人工原料)の概論について学ぶ。 ・原料の移動、輸送や前処理について学ぶ。 ・粉砕方法と粉砕機について学ぶ。 ・粉体の分級、集じんについて学ぶ。			
2 学 期	成形と乾燥 ・固体-水系の処理 ・成形と乾燥 加熱処理 ・加熱方法と熱エネルギー源 ・炉材と窯炉の設計と構築 ・焼成 熔融 ・ガラスの熔融、成形、除冷			セラミック技術の基礎的な理論と具体的な事象などから学ぶ。 ・泥しようと可塑性について学ぶ。 ・乾燥と収縮について学ぶ。 ・炉材の種類、築炉方法について学ぶ。 ・加熱処理するための炉操作について学ぶ。 ・ガラスの製造方法について学ぶ。			
3 学 期	・調合計算 加工 ・機械加工、化学加工、電気加工 ・セラミックの加工の実際 品質管理 セラミック技術と安全 ・公害対策と労働安全 ・廃棄物の処理と再資源化			・釉薬の調合計算について学ぶ。 セラミック技術についての、具体的な事象などから学ぶ。 ・セラミック加工法と、加工の実際について学ぶ。 ・品質管理について学ぶ。 ・公害問題とその原因についてと規制となる法について学ぶ。 ・公害防止対策について学ぶ。			
観点	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
主な 評価 方法	定期考査 プリント 課題		定期考査 プリント 長期休業中の課題		プリント 授業態度 長期休業中の課題		
担当者 より	この科目では「知識・技能」と「思考・判断・表現」により重点を置いて評価をします。 セラミックコース専門科目として専門性が高い科目になります。日頃の学習活動がとても大切なので、1時間1時間の授業を大切にしましょう。 特に提出物の提出期限に遅れずに提出しましょう。						

科目名	インテリア計画	単位数	2	学年	2	学科	工芸デザイン科 (デザインコース)
教科書	インテリア計画(実教出版株式会社)			教材等	教師の自作教材		
目 標	インテリア計画に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。						
授 業 計 画							
	学 習 内 容			備 考			
1 学 期	第1章 インテリア計画の概要			インテリア計画の概要について、住まいの安全と快適性を学習します。			
	第1節 インテリアの概念						
	第2節 インテリア計画			インテリアの造形と心理について、形態、色彩、テクスチャ、空間などの造形要素が人間の心理にどのように働きかけているかを学習します。			
	第3節 生活と住まい						
	第4節 住まいの性能						
	第2章 インテリアの造形と心理						
	第1節 人間の感覚・知覚と造形			インテリアの環境について、物理的環境と心理的環境を学び、我々の生活に適した環境を作り方を学習します。			
	第2節 形態						
第3節 色彩とテクスチャー							
第4節 空間定位							
2 学 期	第3章 インテリアの環境			インテリアと人間工学について、人間工学がインテリアを設計するための有効的な手段としてどのように役立つかを学習します。			
	第4章 インテリアと人間工学						
	第1節 人間工学						
	第2節 人体寸法						
	第3節 動作・作業域・動作空間						
	第4節 インテリアへの応用						
第5節 インテリアの安全			インテリアエレメントについて、インテリアプランニングの立場から学習します。				
3 学 期	第5章 寸法計画と規模計画						
	第1節 空間の目的と規模						
	第2節 寸法計画						
第6章 インテリアエレメント							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
主な 評価 方法	定期考査 教師の自作授業プリント			定期考査 実技課題		取り組み姿勢の観察 長期休業中の課題 教師の自作授業プリント	
担当者 より	この科目では「知識・技能」と「思考・判断・表現」により重点を置いて評価をします。 定期考査だけでなく、実践的な学習にも積極的に取り組んでください。 授業中におけるさまざまな活動も積極的に評価をしますので、どんなことにも前向きに学習していきましょう。						

科目名	デザイン実践	単位数	2	学年	2	学科	工芸デザイン科
教科書名	デザイン実践（実教出版）			使用教材等	教師の自作教材		
目 標	デザインに関する知識を習得し、実際に創造し応用する能力と態度を育てる。また、デザインにより解決できる課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき構想を立て解決する力を養う。						
授 業 計 画							
	学習内容			備 考			
1 学期	- デザインの領域 - 視覚と色彩 - 色を規定する - 配色 - 色と感覚 - 文字			- デザインのはじまりと意義を理解する。 - デザインの領域とそれぞれの領域について人や環境との関わりを学習する。 - 色の三属性、カラーシステム、混色の知識を学び、デザイン実習に必要な知識を習得する。 - 書体に関する学習の前段階として、文字の成り立ちや形にイメージや感情が付加できることを確認する。 - ポスターの企画を通して、コンセプトの構築や発想について学ぶ。			
2 学期	- 日本語書体 - 欧文書体 - 表示の技術と構成 - 写真 - デザインの構成原理			- 日本語書体、欧文書体に関する知識と活用法を学ぶ。 - デザインに必要な表示、材料と用具を学習する。 - 観察と表示、表示から表現へのデザイン活動に重要なプロセスを学ぶ。 - 写真を通して画面の構成やデジタル画像の基礎を学ぶ			
3 学期	- ヴィジュアルデザイン 1年を振り返りデザイン学習について考える。			- パッケージデザインの学習をすることで、コンセプトターゲット、ブランディングを意識した商品のデザイン活動を通してこれまでの学習内容の振り返りと、応用力を身に付ける。 1年で学習したことを振り返り、デザインの諸活動として大切なことをまとめる。			
主な評価法担当者から一言	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	定期考查 プリント 課題		定期考查 プリント アイデアスケッチ 課題		定期考查 取組姿勢 プリント 長期休業中課題		
担当者より	この科目では3観点を均等に評価します。 長期休業中課題においては一定の成果に達するまで繰り返し行うものもあります。期日を守り粘り強く取り組んでください。						

科目名	デザイン材料	単位数	2	学年	2	学科	工芸デザイン科 (デザインコース)
教科書	デザイン材料(海文堂出版)			教材等	教師の自作教材		
目 標	デザイン材料及び加工に関する知識と技術の習得を目指す。使用目的に応じて適切な材料を選択できるよう、材料に対しての理解を深める。						
授 業 計 画							
	学 習 内 容			備 考			
1 学 期	第1章 総説 1節 私たちの生活と材料 2節 材料の種類 ・ 第1 ～ 第5 3節 優れたデザインを生むために ・ 第1 ～ 第8 第2章 無機材料の特性と加工技術 1節 金属 ・ 第1 ～ 第7 2節 セラミックス ・ 第1 ～ 第3			材料とは、材料ごとに異なる特性を持っています。各材料の特性や加工方法を知ること、製品の安全性や機能面の探求、製造コストの把握を行うことができるようになります。 デザイン材料を通して、様々なデザイン・コストに見合う材料の選択が自分自身の知識に基づいて判断できるよう、材料ごとの特徴を把握しましょう。 デザイン材料では自作教材を用いた授業を行います。実際に材料が加工されている映像などを用いて、各種材料の製造工程を学んでいきます。			
	3節 ガラス ・ 第1 ～ 第4 第3章 有機材料の特性と加工技術 1節 プラスチック ・ 第1 ～ 第5 2節 木材 ・ 第1 ～ 第4						
2 学 期	3節 その他の有機材料 ・ 第1 ～ 第3						
3 学 期							
観点	知識・技能			思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
主な 評価 方法	定期考査 教師の自作授業プリント			定期考査 長期休業中の課題		取り組み姿勢の観察 長期休業中の課題 教師の自作授業プリント	
担当者 より	この科目では「知識・技能」と「思考・判断・表現」により重点を置いて評価をします。 新たな製品を開発する上で、材料とその加工方法は重要です。コストや製造方法を考えたデザインを行うために、材料の特性や種類を把握しましょう。 授業中におけるさまざまな活動も積極的に評価をしますので、どんなことにも前向きに学習していきましょう。						

